

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 1 日現在

機関番号：14401

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2013～2014

課題番号：25580032

研究課題名(和文) 博物学標本資料に基づく大阪学の確立：木村蒹葭堂と交遊ネットワークによる包括的研究

研究課題名(英文) Establishment of Osaka-Study based on the investigation of natural history specimens: Comprehensive study of Kimura Kenkado and his intellectual network.

研究代表者

橋爪 節也(hashizume, setuya)

大阪大学・学内共同利用施設等・教授

研究者番号：70180817

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：木村蒹葭堂(1736-1802)の博物学標本に関して、辰馬考古資料館所蔵資料はじめ新出資料を調査し、本草博物学者としての視点と画家としての視点の違いを考察した。物流の中心で商工業が栄えた大阪の都市としての特性を研究する視点から、蒹葭堂のネットワークの一部を資料から検証し、薩摩、土佐など有力な大名と博物学標本に関する関係があったことを認め、町人だけではない大坂の複雑な知的状況と文化的背景を確認した。

研究成果の概要(英文)：We investigated various heritages of Kimura Kenkado (1736-1802) including his works stored in Tatsuuma Collection of Fine Arts, and considered about the differences of his viewpoints between as a pharmacognosist and as an artist. We verified Kenkado's intellectual networks with consideration of the character of Osaka as the center of distribution and business, and discovered the relationships between Kenkado and feudal lords of Satsuma (Kagoshima prefecture) and Tosa (Kochi prefecture) through the exchange of natural specimens. Through these investigations, we confirmed the complicated intellectual circumstances and cultural backgrounds of Osaka.

研究分野：美術史

キーワード：博物学標本 大阪学 木村蒹葭堂 交遊ネットワーク 大名と博物学

1. 研究開始当初の背景

木村蒨葎堂研究は、「蒨葎堂會」結成など大正・昭和初期に盛り上がりながらも戦争で中断し、戦後の本格的な研究再開は、平成15年の大阪歴史博物館「なにわ知の巨人 木村蒨葎堂」展であった。しかし、蒨葎堂の業績は本草博物学から美術、漢詩文、煎茶、地理、海外情報、蔵書、出版など広範な領域にまたがり、本展覧会終了後も研究は進んでいない。中井竹山の懐徳堂、緒方洪庵の適塾関係者と並び、大坂における最高水準の知性を示した人物である蒨葎堂研究の遅滞は、大坂にとどまらず江戸時代の学問や文化芸術を明らかにする上で急務であり、近年の新出資料も含めた新しい切り口での蒨葎堂像の構築に迫られている。

2. 研究の目的

近世大坂の学問や知識人社会を考える上で蒨葎堂を、懐徳堂や適塾とも補完関係にあるユニークな学者として位置づけ、職業的学者とは異なる町人学者としての活動を、物流の中心・大坂らしい学問のありかたとして示すことで、蒨葎堂のみならず時代や大坂独自の社会背景も含んだ全体像解明の足がかりとする。特に関連の博物学標本に注目し、「蒨葎堂日記」や他資料から交遊ネットワークを探ることで、文理に跨がる蒨葎堂の活動を確認するとともに、近世都市大坂を多角的に考察する「大阪学」的な視点もとりいれ、専門領域に特化した研究とは異なる包括的な視点に立つ研究を進める。

3. 研究の方法

(1) 基準となる印譜を比較検討して基準印を定めることで、膨大な点数が残される蒨葎堂関係資料を選別し、それを基礎に蒨葎堂の博物学標本並びに関連した著述、書簡、絵画等の調査を行う。特に辰馬考古資料館所蔵の資料は、本草博物学から漢詩、地誌、蒨葎堂旧蔵品にも及ぶ広範な領域にまたがり、全資

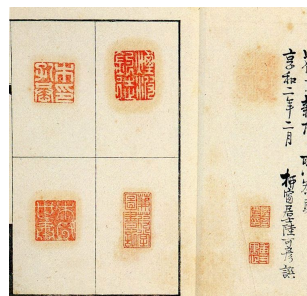
料の画像化も含めた調査を行う。

(2) 博物学資料は標本が絵画化されているものが多く、特に蒨葎堂が諸藩諸国の学者とも連携して残した貝類、虫類に関する資料の成立を「蒨葎堂日記」などによって考証し、大坂における文物の流通も踏まえながら、蒨葎堂の交遊ネットワークのあり方を考察する。同時に本草博物学者としての資料の絵画化と、文人画家として知られた蒨葎堂自身の絵画作品との違いを考察することで、専門領域を超えた形での新しい蒨葎堂像を探る。

(3) 蒨葎堂が晩年に正式に入門した本草学者・小野蘭山からの来信を翻刻して二人の本草博物学的なやりとりと記載された品種を確認し、職業的学者とは異なる町人学者としての学問や研究推進のあり方を考察する。

4. 研究成果

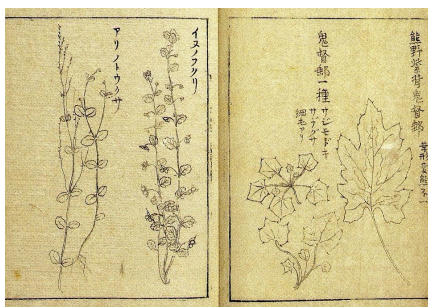
(1) 蒨葎堂資料研究の基礎となる以下の印譜4種「巽斎捐因印譜」(東京都立中央図書館)、「巽斎捐因」(慶應義塾大学)、神戸市立博物館所蔵本、個人蔵本、「溯遊従之」(大阪府立中之島図書館)所収を調査し、享和2年(1802)の蒨葎堂死去の翌月に制作されたことを確認し、印譜ごとの異同を整理した。特に「巽斎捐因印譜」【下図】は約160種の自用印のほか「唐人土州漂着印」「清人刻六面印」など資料的な印章も認められた。基準印の確定で蒨葎堂自筆の書画をはじめ、本草博物学資料や各種メモ類、旧蔵品を確定する基礎条件を整備した。



(2) 基準印から確定した蒨葎堂資料のうち、辰馬考古資料館が所蔵する以下の蒨葎堂自

筆の記録や詩文、メモ類を調査し、蒹葭堂の基礎資料として位置づけた。『蒹葭堂記』は蒹葭堂の詩文と混沌社成立に影響した蒹葭堂会の「草堂課條」「草堂規條」「草堂会約」を収める。『蒹葭堂雜記』は大典顯常、片山北海、葛子琴、篠崎三島、細合半齋、池大雅、岡公翼、龍公美、芥川元章、菅子旭ら蒹葭堂の知友の詩文を控える。『蒹葭堂甲申稿』は明和元年（1764）蒹葭堂 29 歳頃の詩文の自筆稿と朝鮮通信使との応酬詩文を収める。『蒹葭堂詩集』は蒹葭堂用箋に記され、蒹葭堂に贈られた詩文を集めて刊行目的で体裁を整えた自筆稿本と思われる。『蒹葭堂日抄』は備忘録で「蝦夷人之小袖」や「丁未在館ノ唐人二費晴湖ト云モノ画ヲナス」と蝦夷、長崎情報も記す。『蒹葭堂筭記』は中国の文物に関する内容を主とした手控えで、「五明館専辨進呈宮扇」など中国の商標と思われる印刷物が貼られる。『蒹葭隨筆』は日本、中国の緯度の記載や、定武閣、孝盤堂など大坂文人が所蔵する書画を記録し、大坂に沈南蘋、伊孚九はじめ文徵明や董其昌の作品とする書画が流入していたことを伝える。

(3) 本草博物学では、辰馬考古資料館所蔵『本草稿本』【下図】は植物図のほか、他の本草書からの写しと思われる図を集める。



また、辰馬考古資料館所蔵『薩州蟲品』【右上図】の所蔵印から蒹葭堂旧蔵書であることを確認した。蘭学に関心の深い薩摩藩主島津重豪から贈られた昆虫標本をもとに写生したとされ、蒹葭堂本人の写生か、既刊の本草博物学書の図を参照したか判断できないが、琉球方言で蝶・蛾を指す「ハヘル」など虫類

の名称に現地の名称を用いており、薩摩藩から贈られた標本に付された元データに忠実であることが確認できる。

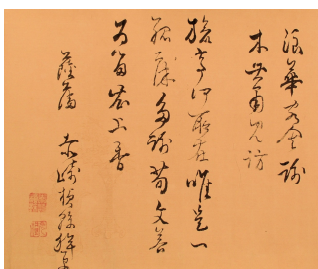


貝類研究では、辰馬考古資料館所蔵・自筆稿本『奇貝図譜』【下図】があり、顔料で彩色され描かれた「隠蓑介」「海兔介」（介＝貝）など紀州田辺周辺の知友のコレクションを多く写す。なお、蒹葭堂旧蔵「貝石標本」（大阪市自然史博物館所蔵）には、東南アジアやヨーロッパ産の貝が含まれ、物産が集積する大坂らしいコレクションの性格を確認できる。この「貝石標本」は「蒹葭堂日記」天明 2 年（1782）2 月によると、蒹葭堂邸に近い土佐藩邸で藩主山内豊雍が供覧した可能性が高い。しかし、表面に貝殻を貼り付けた「貝類標本」をおさめる手提げ箱の装飾には、同時代の伊藤若冲の「貝甲図」（宮内庁三の丸尚蔵館保管）に近い造形感覚が顕著であり、藩主供覧を目的に箱を装飾したとしても、貝殻が本草博物学標本であると同時に、観賞用の装飾素材という目的で用いることを蒹葭堂が許容したことが確認できる。さらに稿本『奇貝図譜』などから、蒹葭堂が貝類に対して、文学的な資料ともつきあわせて考証を進めていたことが分かる。



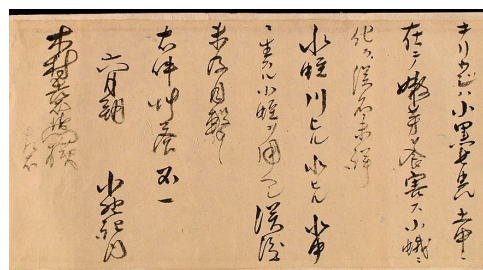
このことは蒹葭堂の初期資料に、植物の細部を観察して描いた本草学資料「蒹葭堂草木写生」（杏雨書屋所蔵）がある一方、鶴亭風の筆致で描く鑑賞絵画「桃花図」（神戸市立博物館所蔵）があることにも通底し、本草博物学者としての蒹葭堂と文人画家としての蒹葭堂との動植物や資料に接する意識が、それぞれの立場で明確に意識され、使い分けられていたことを示している。この点が蒹葭堂の他の本草博物学者とは異なるユニークな点であることを確認した。

（4）江戸中期以降、森野旧薬園などを先駆けに上方では本草博物学研究が盛んになる。物流の拠点、大坂には様々な資料・標本が集まり、蒹葭堂を中心に諸国との独自の研究ネットワークが形成されたことは『薩州蟲品』『奇貝図譜』のほか、「寄題蒹葭堂詩文」に集められた膨大な点数の各地の文人、学者、名士の詩文にも示される。これは蒹葭堂ネットワークが想像上に巨大であったことを実証する資料であり、特に長崎の唐通詞や土佐出身の中山高陽、薩摩藩の赤崎貞幹【下図】などの詩文も注目される。



本草・博物学者が蒹葭堂を中心とした大坂の知識人社会に自覚的な形で登場するのが、「天学家」「物産家」が加えられた寛政2年（1790）版『浪華郷友録』である。同書は蒹葭堂周辺の意向を汲んだ編集と推測され、「物産家」の概念には、本草博物学を越えて地域の産物を研究する領域を意識していること、物産学関係資料の蒐集家も含んでいると推定される。本草博物学から「物産家」への展開は、実学を核にした大坂での、いわば加速する新興の「知」のあり方を如実に示す。

また、『蒹葭堂雑録』（1859年刊）の自伝「巽斎翁遺筆」では、「親族二葉舗ノモノアリテ、物産ノ学アルコトヲ話シ、稲若水、松岡玄達アルコトヲ聞ケリ。」として「物産ノ学」の存在を知り、12、13歳で松岡門人の津島桂庵に「草木ノ事」を問い16歳で入門したとする。桂庵没後は戸田旭山、田村藍水、直海元周と書簡を往来して勉強を続けた。商人として家業があった蒹葭堂にとって往復書簡による学習姿勢は、49歳の天明4年（1784）に入門の誓盟書を出して師事した小野蘭山の蒹葭堂宛書簡にも端的に認められ、本科研で翻刻した蘭山の蒹葭堂宛書簡【下図】にも、諸国の物産や情報が行き来するハブ的な役割を担った大坂の町人学者らしい学問形成のスタイルがうかがえる。



加えて薬種として輸入された「ユニコール」がイッカクの歯牙であることを考証し、大槻玄沢『六物新誌』とセットで寛政7年（1795）に刊行された蒹葭堂の著述『一角纂考』は、蒹葭堂が板本の権利を有する「蒹葭堂蔵板」である。江戸時代の大坂は出版業の中心であり、「蒹葭堂蔵板」が出版の盛んな大坂の特質を生かした活動であったことが再確認できる。さらに注目すべきは、蒹葭堂の資料や情報収集が、商都大坂を中心とした町人学者や同じ松岡門下の鉱物研究者で「竜骨」を考察した木内石亭など民間の学者のネットワークだけではなく、貝類研究、虫類研究で関係する土佐藩、紀州藩、薩摩藩など大名家とも深い関係があることである。純粋な基礎的学問研究だけではなく、殖産興業をも念頭とした実学優先の思想も踏まえ、町人と為政者としての武士階級が比較的自由に交わるこ

とができる環境が大坂にあったことがここに確認され、これは従来の「町人の町」としてイメージが先行して語られがちな商工業都市・大坂の都市像や文化に対して、新しいイメージを提起するものである。

(5)大阪府立博物館の資料に、谷文晁筆「木村蒹葭堂像」(重要文化財)以外の蒹葭堂関係が残されていないか調査し、その追跡過程で、明治21年(1898)設立当初の博物館の巨大な天井画23面が解体後、ほぼ完全に残され、その図像の源流が動植物をモチーフとした古代美術にあることと竣工時の各図配置の復元的考察を論文にまとめた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

橋爪節也「明治二十一年の巨獣たち - 大阪府立博物館美術館の天井画群 - 」「大阪の歴史」82巻、大阪市史編纂所 2014年10月 69 - 95

〔学会発表〕(計5件) 須磨一夫、小栗一輝、島田佳代子、村田路人、橋爪節也、高橋京子 『緒方洪庵の薬箱(阪大蔵)』研究からの示唆: 實芝(ジギタリス)の实地臨床、第9回博物科学会、0-09、愛媛、2014年6月19-20日(口頭)

〔図書〕(計1件)

水田紀久・橋爪節也監修編著『木村蒹葭堂全集』第8巻「蒹葭堂顕彰・年譜・参考文献」2015年9月刊行予定 500ページ 藝華書院

6. 研究組織

(1)研究代表者

橋爪 節也 (Hashizume, Setsuya)
大阪大学総合学術博物館・教授
研究者番号: 70180817

(2)研究分担者

高橋 京子 (Takahashi, Kyoko)
大阪大学総合学術博物館・准教授
研究者番号: 00140400

伊藤 謙 (Itoh, Ken)
京都薬科大学薬学部・助教
研究者番号: 00619281

横田 洋 (Yokota, Hiroshi)
大阪大学総合学術博物館・助教
研究者番号: 50513115

松永 和浩 (Matsunaga, Kazuhiro)
大阪大学総合学術博物館・講師
研究者番号: 90586760

(3)連携研究者

岩佐 伸一 (Iwasa, Shinichi)
大阪歴史博物館・学芸員
研究者番号: 70393288

石田 惣 (Ishida, So)
大阪市立自然史博物館・研究員
研究者番号: 50435880

(4)研究協力者

嘉数 次人 (Kazu, Tsuguto)
大阪市立科学館・事業担当課長代理
学芸員

小原 正顕 (Ohara, Masaaki)
和歌山県立自然博物館・主任学芸員